



採取農業でノウフクの取り組み

薬用作物に係る説明会

2022年10月19日(水)

JA長野県ビル

認定特定非営利活動法人UNE

代表理事 家老 洋

経 歴

- 1957年 新潟県長岡市生まれ
- 長岡市悠久町在住
- 大学(農学部)卒業後1年間ドイツへ農業実習
- 帰国後15年間、農業青年の国際交流事業に携わり、
前半8年間は東京で、
後半の7年間はドイツ ボン市で欧州駐在員として
ドイツ、デンマーク、スイス、オランダを担当し欧州の農業、福祉を学ぶ
- 帰国後、1999年より父の後を継ぎ3期12年長岡市議会議員を務める
- 2011年4月議員を引退しUNEを立ち上げる
- 現在UNE代表理事 12年目

☆趣味

国際交流、旅行、農園芸、ドローン操縦

枋尾地域 一之貝

○令和4年8月1日時点

人口 253人 世帯数 112戸

○平成26年4月1日時点

人口 337人 世帯数 128戸

○長岡市内で一番美味しい米の産地として有名で、高齢者を中心に稲作が盛んである。

○小中学校へ通う子供の数はひと桁で
少子高齢化が顕著である。

○長岡駅から20分

東京駅から2時間



一之貝の棚田 2017年



2022年



雪深い一之貝



UNEHAUS



UNEのスタッフ



今日の農業

- ▶ これまでの慣行農業では一般人が新規参入して生活する所得を得ることはほぼほぼ不可能です。
- ▶ 過疎化の進行により、若い世代は農村から離れ都会で生活するようになり、兼業農家すら無くなって来ました。
- ▶ 年金を注ぎ込んで農業を担ってきた現在の 70代、80代の高齢者も間もなくいなくなってきました。
- ▶ これまで後継者を真剣に育てて来なかった 日本農政が日本農業を滅ぼしてしまいます。

これまでの

UNEの取り組み I

- ▶ UNEの活動は2009年 長岡市千秋が原 信濃川河川敷の畑から始まります。『障害者も健常者も若者も年寄りもみな畑に集まり、一緒に野菜を作り、それを販売して工賃に充てよう!加えて、一緒に作業することでお互いの理解を深めユニバーサルな社会を構築しよう!』といことを目標に掲げスタートしました。
- ▶ 機械も農業経験もない状況では、品質が備わった、相当の量の野菜の収穫は出来ず、満足な工賃を稼ぎ出すことはできませんでした。
- ▶ 野菜ではなく、野菜よりも価格の安定している米であれば?と言うことで、活動拠点の長岡市一之貝で、米を作ろうということなり、その後、農業参入、そして直ぐに認定農業者の指定を受け稲作に取り組みました。

これまでの UNEの取り組み 2

- ▶ 土地改良がされていない条件の悪い田んぼでの稲作は、管理に時間が掛かり収量も平場の田んぼの6割程度にしかありません。加えて平場米より1~2割値段が高くても1反当たりの売上は平場に劣ります。
- ▶ 加えて周辺の田んぼは高齢化に伴いどんどん耕作放棄され、共同で管理、整備して来た水路の江浚い道路の草刈りなどの作業に参加する農家も年々減少して来ています。
- ▶ 生産農業ではなく加工、サービス農業ということで、先ずは漬物や笹団子などを製造販売するために加工場をつくりましたが食品衛生の分野で問題があり挫折。

これまでの

UNEの取り組み 3

- ▶ UNEで穫れる米や野菜などの農産物を調理して提供する農家レストランを開始、定時開店の予約制、加えて、職員スタッフと一緒に食べるレストランということで営業許可を取得し開始し既に11年が経ちます。
- ▶ 共同で管理、整備して来た水路の江浚い道路の草刈りなどの作業に参加する農家も年々減少したため、水路管理ができなくなれば水が来なくなり、田んぼを止めざるを得ない状況は間もなくやって来ます。
- ▶ 田んぼや畑には猪や猿が頻出し大きな被害が出ていますが、独自でワナを作り仕掛けていますが、年々被害が増大しています。

これまでの

UNEの取り組み 4

- ▶ それではUNEで穫れる米や野菜などの農産物を調理して提供する農家レストランを開始、定時開店の予約制、加えて、職員スタッフと一緒に食べるレストランということで営業許可を取得し開始し既に11年が経ちます。
- ▶ 自家産米を使って作るどぶろくも製造販売、どぶろくを飲んで泊まれる簡易宿舎、素泊まりの民泊施設を開設をしました。
- ▶ コロナ禍を機にキッチンカーの製造・弁当などの移動販売も開始しました。
- ▶ これらの取り組みも先ずは、公的機関の許可を得るために施設整備等の投資が欠かせず、未だ投資したものを回収するまでには至っていないのが現状です。

新たな取り組み 採取農業

- ▶ 機械や施設整備などへの先行投資が要らないもの、それは自生している笹やヨモギ、クロモジなどを採取し、調整、加工して直接、商社やメーカーに販売することです。
- ▶ 米や野菜のように栽培するには種播き、管理、収穫という手順が必要ですが、自生している場合は収穫だけでの作業で済みますので人件費が大幅に節約できます。
- ▶ 種代、肥料代、そして農薬代なども不要で、災害や猪、猿などの獣の被害も殆どありません。つまり、労力そして販売までに要する経費が圧縮できることで、手元に残るお金が多くなり、その分、労賃に回すお金が多くなります。

ノウフクレート 1

- ▶ 2年前からUNEではノウフクレートという指標を作り、作業毎に何時間、何人で作業に関わったかを記録しています。
- ▶ 全ての作業が終了した際の売上から経費を引いて残った利益を総労働時間人で割ったものをノウフクレートとし、それぞれの作業のノウフクレートを算出しています。
- ▶ ノウフクレートは言い換えれば作業単価ですので、例えばノウフクレート:500であれば、1時間当たりの労賃が500円つまりこの10月1日から障害者を雇用して新潟県の最低賃金890円を支払うのであれば390円のマイナスです。
- ▶ よって正規雇用の労働者を使って、その作業をやる場合は、その作業は止めるべきとの判断となりませんが、障害者や生活保護、そして高齢者の場合は年金を貰っているので 500を目標にしています。

ヨモギの作業日報とレート計算

月日	時間	活動時間	人員	延時間	従事者	内容	
			427	853			
3月29日	15:30	17:00	1.5	2	3	田中、由紀子	緑水回収
4月1日	14:00	15:00	1.0	4	4	田中、武田、鳥山、相原	千秋、R1よもぎ畑緑水散布 (1.2a)
	14:00	16:00	2	1	2	齋藤	千秋、よもぎ予定圃場トラクタ耕耘
4月5日	14:00	15:30	1.5	3	4.5	田中、鳥山、浅染	千秋、よもぎ予定圃場緑水散布 (1.4a)
	15:30	17:00	1.5	1	1.5	齋藤	千秋、よもぎ予定圃場トラクタ耕耘
4月7日	14:00	17:00	3	1	3	齋藤	千秋、よもぎ予定圃場畝たて
	15:00	16:00	1	2	2	田中、岩滝	緑水回収
4月8日	14:00	16:30	2.5	8	20	家老、齋藤、田中、武田、鳥山、山田 由紀子、浅染、三郎、岩滝、渡辺	千秋、よもぎ苗取り
4月11日	9:00	11:30	2.5	12	30	齋藤、田中、由紀子、武田、鳥山、相原 浅染、三郎、岩滝、山田、船山、渡辺	千秋、よもぎ苗取り
	14:00	16:00	2	12	24	齋藤、田中、由紀子、武田、鳥山、相原 浅染、三郎、岩滝、山田、船山、渡辺	千秋、よもぎ植付
4月12日	9:00	11:30	2.5	8	20	田中、武田、鳥山、浅染、岩滝、三郎 渡辺、羽賀	千秋、よもぎ苗取り
	14:00	16:00	2	7	14	武田、鳥山、浅染、岩滝、三郎 渡辺、羽賀	千秋、よもぎ植付

【売上(1,768千円)-経費(392千円)] ÷ 853時間・人

=ノーフレート：1613

ノウハウクレート 2

- ▶ 今一度、作業のやり方を①安全性 ②完成度（正確さ、綺麗さ等）③効率性の3つの観点から再点検しながら、出来るだけノウハウクレートを最低賃金に近づけるようチャレンジし続けています。
- ▶ 加えて、販売先に対してノウハウクレートを使って「これだけ頑張っているのに、この単価ではやっていけない!」と主張することができるようになりました。
- ▶ 例えば、ヨモギに関していうと、2年前より1割単価を上げて貰ったことで、一昨年のノウハウクレートは1304、昨年は1354そして今年は今時点で1613に迄向上させることが出来ました。

ヨモギの作業 1



ヨモギの作業 2



ヨモギの作業 3



ノウフクレート 3

- ▶ 笹に関して云えば、今年ノウフクレートを用いて納入先の商社に値上げ交渉をし、担当者からも直接作業に参加して貰い作業の大変さを理解して貰い単価を17%上げて貰いました。
- ▶ また、これまでは笹団子の包装材としてのみ出荷していたものを、包装材として分別破棄していたB品を自然乾燥させ、細断し別途別のメーカーに販売することができたことで、2年前のノウフクレート564が昨年は483にそして今年は1004まで向上させることが出来ました。
- ▶ クロモジについても同様に、出荷先とのノウフクレートを下に単価交渉をしており、今後新たな展開が期待できそうです。

笹の作業



クロモジの作業



ノウフクジョブ |

- ▶ UNEは、ノウフクレート:500以上のものを「ノウフクジョブ」に認定し、その内容をどんどん改善、改良する努力を続けています。
- ▶ 誰もができる:ノウフクジョブは大きく、収穫、調整、出荷という工程に分けることができます。
- ▶ そしてそれぞれの作業は、①経験が無くても ②力が無くても ③先行投資が無くても ④資金が無くても ⑤障害があっても ⑥社会にわだかまりがあっても、誰もが始め、そして携わることが出来るユニバーサルな「しごと」です。
- ▶ 沢山で出来る:ノウフクジョブは、誰もが携わることができまので、フィールドを広げさえすれば大勢の人たちが携わることが可能です。

ノウフクジョブ 2

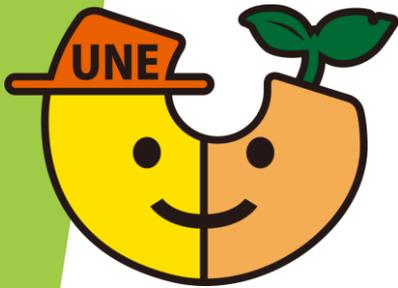
- ▶ みんなでやれば楽しくなる:ノウフクジョブは、みんなでやれば「難儀いしご」とも楽に、楽しくできます。みんなと一緒に話しながらの休憩は楽しみにになります。そしてみんなと一緒に自ら作ったもの、採ったものを調理された食事は美味しく、そして情報交換の場ともなります。
- ▶ ノウフクジョブは楽しいしごとですので大勢の人が集まります。人が集まれば新たなしごとが生まれます。しごとが生まれれば、人が集いその集落は活性化します。
- ▶ これからノウフクが少子高齢化による人口減少の中山間地域の集落、そして日本社会を救う一つの術となると思います。

これからの日本社会 Ⅰ

- ▶ 円安が進み食糧を輸入に頼ってきた日本の物価は今後どんどん上昇し、低所得者は生活できなくなりそうです。賃金は上がらず、人口が急激に減少するに関わらず、失業者は増えることが予想されます。そんな状況では、ますます日本社会は混迷し、貧富の格差が広がると共に、生活困窮者の数は増加することが予想されます。
- ▶ 障害者の数、特に社会が複雑化、輻輳化することで精神障害者の数が著しく増加することが予想されます。
- ▶ それらに伴い、行政支出はどんどん増え続け、しまいには日本政府、地方自治は破綻してしまうことを憂慮しています。

これからの日本社会 2

- ▶ そのような社会背景の下、金のかからない農業、福祉を再構築し、そして農業と福祉が連携することで、多くの人たちの生き甲斐、遣り甲斐、楽しい居場所という『幸』を創造するのがノウフクの役目と思います。
- ▶ そろそろマネーゲームの経済と決別し、地に足がついたしごとを見直し新たな社会をノウフクで再構築しようではありませんか日本社会を救うのがノウフクであると思います。



ご清聴ありがとうございました！

認定特定非営利活動法人UNE
代表理事 家老 洋